

## 【特集】Next PILLAR座談会

## 理念への共感が連鎖して新たなバリューに

調達・営業・技術・経営企画から、次世代を担う社員4名が職種を越えて集結。  
PILLARが築いてきた歴史と向かう未来、自身の仕事との向き合い方を語り合いました。



Tetsuya Yokota

Ryoko Nishii

Jun Hina

Mao Inatome

## 100年企業で働く誇りと重み

**西井** 新規設立企業の「10年生存率」が約6%といわれる中、当社の創業100周年に立ち会えたことを光栄に思います。営業担当としてお客様と商談をしていると、昭和30年代、40年代に製造された機械に使用されている当社製品の引き合いをいただくことがあります。当社にはお客様の機械トラブルや改造の履歴がきちんと残され、過去の苦労や技術が確実に蓄積されています。それが、お客様に長く価値をお届けしているのだと、当社の歴史の重みを実感します。

**日名** エンジニアの業務でも、さまざまな設計図や文書に勤どころの伝承があり、先輩からの知見の積み重ねを感じます。1992年生まれの私より“年上”の図面や文書に日頃から教えられたり、助けられたりすることもあります。

就職活動のとき、私は歴史のある地に足のついた企業を志望していました。過去の蓄積はエンジニアにとって非常に価値があり、貴重なアセットです。長く受け継いだ歴史がある分、古めかしいと思われることがあるかもしれませんが、しかし、当社のエンジニアは過去を大切にしながら新しいものを取り入

れ、ひたむきに仕事に向き合っていると感じます。

**横田** 私は2度の転職を経験していますが、当社は長い歴史の中で築いた信頼と実績を強固な基盤として、企業価値につながっていると思います。特に海外メーカーは“100年企業”に好意的な印象がありますね。調達部にとって重要なミッションである新規サプライヤーの開拓では、会社の歴史により信用を得られていると感じます。

**稲留** 私もキャリア採用です。転職の際には企業の社是やパーパスを見るようにしていたこともあり、当社の社是には惹かれるものがありました。社是やパーパスは、そこで働くにあたり中心に捉える会社の軸です。100周年を機に「PILLAR CORE VALUES」が策定され、これにより“PILLARらしさ”がより明確になり、社会や時代の要請に応えるものになったと考えています。

5つのPILLAR CORE VALUESの中でも、私は日々の業務で特に「誠実」を意識しています。サステナビリティ情報開示など社外への情報発信の際は、社是やパーパスとのズレがないかを自問しながら文章を作成しています。100年史のトップメッセージや記念式典の訓示などからも、より一層成長し



「パーパスを実現するために自分の立場から責任を果たします」

(2020年中途入社)  
**横田 哲也**  
調達部 リーダー



「PILLARは社会課題の解決に貢献できると信じています」

(2007年新卒入社)  
**西井 亮子**  
営業本部 営業2部  
主査



「PILLARの団結力と粘り強さで新たな技術の開発を目指します」

(2017年新卒入社)  
**日名 純**  
技術本部 三田技術2部  
新エネルギーグループ  
主任



「未来の社会を支えるという大きな責任を果たしていきます」

(2020年中途入社)  
**稲留 真央**  
経営企画部  
サステナブル推進グループ  
主査

ていこうという会社の思いを受け取り、高い倫理観を持ちながら貢献していきたいと考えています。

## 部門を越えたOne Teamで社会を支える

**西井** 新しく策定されたPILLAR CORE VALUESは、いきいきとした毎日を過ごしながら仕事を通じて社会に貢献するキーワードになると感じています。一方で私は古き良き日本人の美徳のような当社の社是にも共感していて、「和衷協力」「一步研究」が好きです。

新市場や新製品開発に関わっていると、お客様の新たなニーズに対するソリューションを形にしていくために、部門を越えた検討が必要になる場面が時に起こります。まさに、日々の業務において社是が生きています。

**横田** 私は「社会を支える」未来を創る」というパーパスが、時代や市場のニーズに合わせた製品・サービスを提供することに留まらず、ステークホルダーとともに持続可能な社会に貢献することまでも含んでいると捉えています。

調達部の業務を通じてそのパーパスを実現するために、環境や社会に配慮した調達活動を意識しています。協力会社とともにCSR調達やグリーン調達などを推進して、環境負荷物質の低減に協力するなど、自分の立場から社会的責任を果たしていきたいと考えています。

**日名** 私もカーボンニュートラル社会の実現に向けた役割の一翼を担っている自負があります。当社の製品が持続可能な社会に大きな価値をもたらすと考え、そのために新たな技術の開発も目指しています。それを実現するには、当社の団結力や粘り強さが重要だと思っており、エンジニアだけでなく、オールPILLARで課題に取り組むことでより大きな成果が実現できると考えています。私はPILLAR CORE VALUESの「Team(仲間)」に強く共感しています。

## 持続可能な未来の社会にPILLARが果たす役割

**横田** 2050年カーボンニュートラル達成を視野に、社会は大きく変化していくでしょう。しかし常にリスクを想定し、サプライチェーン全体で社会のニーズに応えていく姿勢は不

変です。前例や知見が豊富にあるからこそ、既存のやり方にみにこだわらず、解決のパターンも複数あると意識しながら、柔軟に対応できる組織を構築していく必要があると思っています。

**西井** ここ数年で当社は大きく変わりましたが、まだまだ変化が必要です。特にダイバーシティについては、私が入社した頃は結婚・出産などのライフイベントを迎えた女性がそれ以前と同じ内容で仕事を続けるのは難しい環境でした。それでも、私と同年代の女性が会社を辞めずに働き続け、責任あるポジションを目指せるようになってきました。これは、会社が変わろうとした結果だと思っています。

変化を止めた時点で企業に未来はありません。人事制度だけでなく、もちろん技術開発も営業も変化していかなければなりません。カーボンニュートラルの社会、持続可能な未来のためには、100年で積み上げた技術や知識、多様な製品群をベースに、新たな市場への挑戦が欠かせません。簡単ではありませんが、当社の仲間がOne Teamで臨めば、きっと社会課題の解決に貢献できると信じています。

**日名** 求められることは時代により変わりますし、企業が社会にもたらすべき価値も変わっていきます。古風に見えるかもしれない当社も、多様な人材の中途採用やタンケンシールセコウのグループ化(P33で特集)により新たな価値観を受け入れながら大きく変化していると感じます。

これからも、よりクリーンでセーフティな製品を送り出し、業界のフロンティアとして価値を創造していけるよう、私自身も新たな材料、新たな技術開発に挑戦していきます。

**稲留** 当社の製品は一般の生活者に意識されることはあまりありませんが、これまでも時代の要請に応じて活用されてきました。世の中が変化しても、市場に対して当社が提供する本質的な価値は変わりません。

この先も当社は高い流体制御技術や材料技術を通じて社会を支えていくでしょう。それを可能にするスピード感で改善や革新、開発を行っていると思います。私たちの仕事が、子どもや孫の世代が過ごす未来の社会を支えることにつながると思うと、とても存在意義を感じられます。その大きな責任を果たしていきたいです。